

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|---|----|-------|
| 報告番号 | 乙 第 3137 号 | 氏名 | 平野 由似 |
| 論文審査担当者 | 主査 小風 暁 教授 副査 西村 栄一 教授 副査 北見 由季 准教授 | | |
| 論文題名：水銀感作率の推移に関する検討 | | | |
| 掲載雑誌名：昭和学士会雑誌 第 80 巻 第 1 号 29-34 頁 2020 年 掲載 | | | |
| <p>水銀は感作能を有し、全身性接触皮膚炎と称される特有の皮疹を生じることが知られている。申請者らは、水銀の感作率および感作の原因を検討する目的で、29年間の1683名のパッチテスト結果を検討した。</p> <p>陽性反応は130名に認められ、陽性率は7.7%であった。陽性者の平均年齢は37.8歳で、そのうち30歳未満が41%、40歳未満が61%で、水銀感作は低年齢で成立していると考えられた。低年齢で接触しうる水銀含有物としてマーキュロクロムや朱肉が考えられ、感作はこれらによって経皮的に成立した可能性が高いと思われる。現在、アマルガムの廃絶宣言が表明され、水銀による地球規模での環境汚染を防止するために水俣条約が採択されたことにより、水銀の感作率自体は低下傾向にはある。他方、本邦ではスタンダードシリーズに含まれている他のアレルゲンの陽性率と比較すると、水銀の陽性率は決して低いとは言えず、引き続き重要なアレルゲンとして扱う必要があると考えられた。本研究は長期間にわたって十分なサンプルサイズで行われたものであり、水銀感作に関する新知見を与えるものと考えられる。</p> <p>以上、本論文は本学大学院学位論文（博士）審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p> | | | |

(主査が記載、500字以内)